

<p>13日 (日)</p> <p>エゼキエル 48章</p>	<p>「この都の名は、その日から『主がそこにおられる』と呼ばれる」(35節)。エゼキエルに示された新しい都の幻は、ユダ族(ダビデ家)だけの繁栄ではなく、十二部族すべてが安住の地を受ける描写で閉じられる。「ダビデ家万歳！」の狭いビジョンではなく、「十二部族共生」のビジョンにこそ、主は共に歩まれるのだ。</p>
<p>14日 (月)</p> <p>ダニエル 1章</p>	<p>「侍従長はダニエルに言った。『わたしは王様が恐ろしい。』」(10節)。バビロン王は、イスラエルの少年たちを権力の前にひれ伏し従う人材に育てようとする。「王を恐れる」大人たちに対し、イスラエルの少年たちは、「神を畏れる信仰」を持って王の前に立つ。今日わたしは、何を「恐れ」、何を「畏れる」のか。</p>
<p>15日 (火)</p> <p>ダニエル 2章</p>	<p>「神は時を移し、季節を変え、王を退け、王を立て、知者に知恵を、識者に知識を与えられる。」(21節)。「わたしが見た夢を言い当てて解釈せよ」という理不尽な王の要求の前にバビロンの知者たちは皆殺しにされる。おごり高ぶる権力の暴走。しかし、主なる神だけは王の罪をじっと見つめておられる。</p>
<p>16日 (水)</p> <p>ダニエル 3章</p>	<p>「この僕たちを、神は御使いを送って救われた。」(28節)。「金の像を礼拝せよ！」というバビロン王の命令に従わなかった三人のユダヤ人は、燃え盛る炉に投げ込まれる。しかし彼らが火に焼かれることなく自由に歩き回る姿を見て、王は驚嘆する。今日、世界の隅々に神の国と義がなりますように。</p>

<p>17日 (木)</p> <p>ダニエル 4章</p>	<p>「王様、どうぞわたしの忠告をお受けになり、罪を悔いて施しを行い、悪を改めて貧しい人に恵みをお与えになってください。」(24節)。王の使命は貧しい者の命を守ること。神を畏れ、神に知恵を求めるダニエルだけがバビロン王に正しい忠告を与えられる。神の深い慈しみと正義こそが人間を生かすからである。</p>
<p>18日 (金)</p> <p>ダニエル 5章</p>	<p>「あなたはその王子で、これらのことをよくご存知でありながら、なお、へりくだろうとはなさらなかった」(22節)。ベルシャツアル王が大宴会を開いている時、壁に字を書く指があらわれ、王は真っ青になる。彼は父の晩年の姿に学ぶべきだったが、へりくだろうとしなかった。人は、神を畏れることをどのように学ぶのか。</p>
<p>19日 (土)</p> <p>ダニエル 6章</p>	<p>「ダニエルは…ひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。」(11節)。「王を差し置いて他の神を礼拝する者は、ライオンの洞窟に投げ込まれる！」という命令にもかかわらず、ダニエルは日々の祈りと賛美を止めなかった。主よ、信仰弱き者に、今日、祈ることの恵みを教えてください。</p>
<p>20日 (日)</p> <p>ダニエル 7章</p>	<p>「諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はことしえに続き、その統治は滅びることがない」(14節)。神の幻は、その定められた時までは沈黙する。どの答えが正解で、どの答えが誤りなのか、それは、主の時までわからない。人の知恵で判断することはできないが、主が真実な幻を示してくださる。</p>